

福島県教育旅行ジャーナル

Fukushima Prefecture Educational travel journal

vol. 18

平成27年10月発行



発行責任者

福島県観光交流課

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
TEL: 024-521-7398 FAX: 024-521-7888
E-mail: tourism@pref.fukushima.lg.jp

編集

ふくしま教育旅行再生事務局

〒960-2153 福島県福島市庄野字清水尻1-10<嶺山川印刷所内>
TEL: 024-563-6902 FAX: 024-593-5502
E-mail: kyouiku-info@yamakawa-p.co.jp

修学旅行や研修で賑わう福島県会津若松市。中心街では、地図を片手に目的地を目指す生徒たちの姿がよく見られます。今回は会津若松観光ビューローと、実際に同市内で自主研修を実施した学校の先生方に話を伺いました。インタビューを通して見えてきた、自主研修に求められる学習要素。そしてそれに応える街の取り組みを紹介します。



会津エリア
会津若松市

市内自主研修で育む力 生徒が安心して研修できる体制づくり



歴史学習や交通の便の良さから、修学旅行や研修場所として選ばれる会津若松市。

しかし東日本大震災後、同市を訪れる県外の学校数は震災前の1割程度にまで減少しました。それを受け、会津若松観光ビューローでは平成23年度に隣接県である宮城県へ教育旅行誘致キャラバンを実施。424校の学校と全ての市町村教育委員会を訪問し、会津若松市の現状の説明を行いました。

その結果、平成26年度では震災前の6割程度まで来校数が回復(会津若松観光ビューロー調べ)。現在でも学校からの要請を受けて保護者説明会へ出席し、風評被害の払拭と教育旅行の入込数回復に向けて積極的に活動しています。

ぜひ教育旅行は会津若松市へ!

(財)会津若松観光ビューロー
観光事業部 芳賀吉夫さんより

会津若松市は以前から、安心して街中を散策できる自主研修の適地としても好評です。そして会津の歴史、文化、または体験学習等、多くを学んでいただいております。

平成28年度より学校教育のなかでの道徳が教科と決定され、その指導方法について全国の学校において様々な試みが展開されております。会津には会津藩由来の「ならぬことはならぬ」に代表される精神文化が脈々と受け継がれて、会津若松市の誇りともなっております。ぜひ、本市へ教育旅行の学習活動にご来訪ください!

「安心マップ」で安全な研修を!



「地震が起きたときの避難場所は?」
「ケガや病気、緊急時の連絡先は?」
東日本大震災以降、人々の中で防災や安全管理が強く意識されるようになりました。そこで同市では学校や保護者からの要望を受け、避難所や病院、警察署などを記載した「安心マップ」を作成。同市の教育旅行パンフレット「あいばせ」にも反映されており、不安払拭に役立てられています。



▲避難所・病院等以外にも、観光案内所や史跡の情報を掲載。距離数の表示もあるので、徒歩での研修にも便利です。

先生の声

市内班別研修を通して「ひとは自然と社会のなかで生かされている」ということを実感してほしい!

今回、自然の中で共同生活を送ることで、協調性が身につく、生徒たちに助けあう心が芽生えたのではないのでしょうか。

今回の宿泊学習では、普段の学校生活では見られない生徒の笑顔を見ることができました。



茨城県那珂市立第四中学校
中学2年の宿泊学習で来県
5月27日~5月29日

たくち みずほ
教頭 田口 瑞穂 先生

先生の声

会津若松市は歴史がありながらも、街がしっかりと整備されていて安心して修学旅行を進めることができました。集団行動に必要なことは時間を守る力と協力し合う心。普段は常識として片づけてしまうことですが、市内班別研修を通して会津藩士の信条「什の掟」のような道徳心と人を敬う気持ちを育みたいのです。



山形県天童市立天童南部小学校
小学6年の修学旅行で来県
6月26日

いらい こうき
学年主任 岩井 弘紀 先生